

研究

育児不安尺度の作成に関する研究 その3

— 3歳児, および, 4歳児の母親用モデル—

吉田弘道

〔論文要旨〕

3歳児, および, 4歳児の母親用育児不安尺度の開発を目的に, 尺度の試案を作成し, 調査を行った。また, 妥当性検討のために STAI 状態・特性不安検査も同時に実施した。各群256と196の資料について因子分析したところ, 3歳児では, 「育児不安」因子11項目とその他の5因子30項目, 4歳児では, 「育児不安・自信のなさ」因子10項目とその他の4因子25項目からなる育児不安尺度が作成された。それぞれの因子についてクロンバッハの α 信頼性係数を求めて確認したところ, 同一因子内の項目の内的整合性, および, 合計得点の信頼性が確認された。また, 「育児不安」因子, および, 「育児不安・自信のなさ」因子の合計得点から育児不安の段階を5段階に分類した。この5段階評定と STAI の状態不安5段階評定との間で相関係数を求めたところ妥当性が確認された。

Key words : 育児不安尺度, 3歳児の母親用モデル, 4歳児の母親用モデル, 信頼性, 妥当性

I. はじめに

筆者は共同研究者と共に, 子育てをしている子どもの月齢や年齢に応じた母親の育児不安尺度を作る必要があることを提唱している¹⁾。これを受けて, これまでに, 1・2か月児の母親用モデルと1歳半児の母親用モデルについて報告してきた^{2,3)}。その後, より小児保健の臨床現場で使いやすい尺度を作ることを目的に研究を行い, 4・5か月児の母親用モデルと10・11か月児の母親用モデルを提出した⁴⁾。さらに, すでに提出してあった1歳半児の母親用モデル³⁾を改良すると共に, 2歳児の母親用モデルについても報告している⁵⁾。

これまでに筆者らが報告している育児不安尺度は, 「育児不安」, 「自信のなさ」, 「育児満足」, 「夫のサポート」, 「子どもの育てやすさ」, 「相談相手の有無(相談

相手あり)」の6因子で構成されている。このような構造にしているのは, この尺度を用いて, 育児不安の程度だけでなく, 母親の育児を支える環境, 母親の子どもにとらえ方, 育児満足の程度について, 一緒に測定したいと考えたからである。さらに「育児満足」もとらえようとしているのは, 育児に対する関心が低下しているために育児不安が低い母親を識別できると考えているからである。

以上のような育児不安尺度の作成研究の流れの中で, 今回は, 3歳児健診の場でも使えることを考えて3歳児の母親用モデルを作成することと, 幼稚園への入園による子育て環境の変化が生じていると考えられる4歳児の母親用モデルを作成することを目的に研究を行った。

The Study for the Development of Maternal Anxiety Scales-3 :
Models for Mothers Rearing 3 Year-old and 4 Year-old Children
Hiromichi YOSHIDA

専修大学人間科学部(研究職/教育職/臨床心理士)

別刷請求先: 吉田弘道 専修大学人間科学部心理学研究室 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

Tel : 044-911-1015 Fax : 044-922-4175

[2489]

受付 12.11.30

採用 13. 8.27

II. 方 法

1. 調査方法

調査は、保健福祉センターと保育園・幼稚園の協力を得て行った。保健福祉センターについては、川崎市内3つの保健福祉センターの3歳児健康診査（以下、健診）の機会を利用して、調査依頼状、研究説明書、調査用紙、研究同意書、同意撤回書、返信用封筒のセットを配布し、郵送にて調査用紙と研究同意書を回収した。配布数は健診の受診者全員であった。また調査期間は、2012年4～6月であった。保育園・幼稚園については、関東地方、東北地方の2つの保育園、5つの幼稚園の3歳児クラスと4歳児クラスの保護者全員に対して、園にて上記と同じ調査書類セットを配布し、封をした状態で園にて調査用紙と研究同意書を回収した。調査期間は2012年5～7月であった。

2. 調査用紙

1) 育児不安尺度試案

今回用いた育児不安尺度試案は、すでに報告したものと同一であり²⁻⁵⁾、母親の育児不安19項目と、それに影響を及ぼすと考えられる夫のサポート7項目、相談相手の有無4項目、子どもの気質や育てやすさ8項目、そして、母親の育児意識・育児満足17項目の計55項目で構成されていた。この試案の作成に当たっては、これまでの育児意識や母子関係に関する研究を参考にした。特に育児不安項目の選択に当たっては、筆者らが、育児不安を、育児に伴う自信のなさや不安、子どもと関わることの疲労感、子育てからの逃避願望、育児による社会からの孤立感などとしてとらえていたので、この観点に立って選択した。それぞれの項目について、〈全くそう思わない〉、〈いくらかそう思う〉、〈ときどきそう思う〉、〈よくそう思う〉の4段階で回答を求め、この4段階に対して、1～4点を与えて整理した。

2) 日本版 STAI 状態・特性不安検査

育児不安尺度を用いて測定される不安の程度の妥当性を確認するため、育児不安研究で用いられている日本版 STAI 状態・特性不安検査を用いた。状態不安20項目、特性不安20項目から構成されており、状態不安については、〈全くちがう〉、〈いくらか〉、〈まあそうだ〉、〈その通りだ〉の4段階、特性不安については、〈ほとんどない〉、〈ときたま〉、〈しばしば〉、

〈しょっちゅう〉の4段階で回答を求め、この4段階に1～4点を与えて整理した。最終的には、状態不安の合計得点から、不安5段階に整理した。

3) 属性把握の項目

以上の項目のほか、対象者の属性を把握するために、対象とする子どもの年齢、性別、出生順位、就園状況、母親の年齢、育てている子どもの数、最終学歴、就業状況、家族構成を記入する9項目も含んでいた。

3. 統計分析

以下の①～⑥までの統計分析を行った。①因子の抽出を行うために55項目について、これまでに報告した育児不安尺度との統一を持たせることを考えて6因子を指定して因子分析（直交バリマックス回転）を行った。②項目の選択作業として、各因子において、負荷量.40未満であった項目を削除して再度因子分析を行った。③その後同じ因子内の項目で、内部相関係数が.35未満を多く示した項目は、因子内の項目一貫性を低下させるので除外した。また内部相関係数.60以上を示した項目は類似した内容の項目であるので、どちらか一方を削除した。④最終的に得られた項目について、同一因子内の項目の内的整合性を確認し、合計得点の信頼性を検討するために、クロンバッハの α 信頼性係数を求めた。⑤選択作業を経て残った育児不安項目の合計得点の平均値と標準偏差を求め、この数値に基づいて育児不安段階を5段階に整理した。⑥5段階評定の妥当性を検討するために、育児不安5段階評定と、STAIの状態不安5段階評定との間でピアソンの相関係数を求めた。以上の統計分析にはSPSS V19（Windows版）を用いた。

4. 研究倫理について

本研究では、協力者に、資料は研究のみに使うこと、無記名で調査用紙を回収すること、プライバシーの保護、資料の保管方法などを記した説明書を用いて説明し、研究同意書をもって協力への了解を得た。なお、

表1 配布数・回収数・回収率（%）

	配布数	回収数 (回収率)	分析数
保健福祉センター (3歳)	582	135 (23.2)	106
保育園・幼稚園 (3歳児・4歳児クラス)	628	415 (66.1)	346

表2 育てている子どもの数と出生順位

人数と割合 (%)

年齢	母親の人数と子どもの性別	育てている子どもの数				対象児の出生順位							
		1人	2人	3人以上	不明	1人 1番目	2人 1番目	2人 2番目	3人 1番目	3人 2番目	3人 3番目	それ 以外	不明
3歳児 (3歳0か月～11か月 平均3歳4か月)	256 (男127, 女122, 不明7)	81 (31.6)	131 (51.2)	43 (16.8)	1 (0.4)	77 (30.1)	56 (21.9)	73 (28.5)	2 (0.8)	14 (5.5)	25 (9.8)	2 (0.8)	7 (2.7)
4歳児 (4歳0か月～11か月 平均4歳5か月)	196 (男94, 女100, 不明2)	38 (19.4)	124 (63.3)	34 (17.3)	0 (0.0)	38 (19.4)	56 (28.6)	67 (34.2)	2 (1.0)	11 (5.6)	16 (8.2)	6 (3.1)	0 (0.0)

表3 就園状況

人数と割合 (%)

	対象児の就園状況			
	保育園	幼稚園	未就園	不明
3歳児	46 (18.0)	145 (56.6)	65 (25.4)	0 (0.0)
4歳児	29 (14.8)	167 (85.2)	0 (0.0)	0 (0.0)

本研究は、専修大学人間科学部心理学科・人を対象とした研究倫理委員会の審査を経て承認されている。

Ⅲ. 結 果

1. 収集した資料の概要

乳幼児健診では、配布した調査資料582のうち135が回収され、回収率は23.2%であった。135の資料から、同意書が同封されていなかったり、年齢が3歳未満であったりした資料、および、回答に不備のあった資料を除く106を分析の対象とした(表1)。保育園・幼稚園では、配布した調査資料628のうち415が回収され、回収率は66.1%であった。415の資料から、年齢が5歳であったものや、同意書が同封されていなかったも

の、記載に不備のあった資料を除く346を分析の対象とした(表1)。以上の結果、3歳児の母親256、4歳児の母親196を分析の対象とした。分析の対象とした母親の育てている子どもの数、対象とした子どもの出生順位、母親の年齢や学歴、就業状況などの属性は表2～5に示した通りであった。

2. 因子分析の結果、および、合計得点の信頼性

1) 3歳児

6因子を指定して因子分析を行ったところ、予想通りに分類され、項目が「育児満足」、「育児不安」、「夫のサポート」、「自信のなさ」、「子どもの育てやすさ」、「相談相手の有無(相談相手あり)」の6つの領域に分かれた。因子負荷量が.40未満であった項目5つを削除して、再度因子分析を行ったところ50項目が残った(表6)。この結果をもとに、前述した項目選択の考えに基づいて項目を選択し、それに、項目55「子どもの発育発達はおおむね順調である」を加えて、最終的に41項目にした(表7)。それぞれの因子のクロンバッハの α 信頼性係数は.76～.87であり(表7)、

表4 母親の年齢と学歴

人数と割合 (%)

	母親の年齢区分					母親の学歴				
	20歳未満	20代	30代	40歳以上	不明	中学卒	高校卒	専門学校・ 短大卒	大学・ 大学院卒	不明
3歳児	0 (0.0)	28 (10.9)	199 (77.7)	27 (10.5)	2 (0.8)	3 (1.2)	54 (21.1)	99 (38.7)	97 (37.9)	3 (1.2)
4歳児	0 (0.0)	19 (9.7)	148 (75.5)	28 (14.3)	1 (0.5)	4 (2.0)	47 (24.0)	97 (49.5)	46 (23.5)	2 (1.0)

表5 母親の就業状況と家族構成

人数と割合 (%)

	母親の就業状況			家族構成			
	常勤・パート・ 自営・農業・漁業	主婦	不明	核家族	複合家族	単親	不明
3歳児	86 (33.6)	168 (65.6)	2 (0.8)	218 (85.2)	35 (13.7)	3 (1.2)	0 (0.0)
4歳児	63 (32.1)	132 (67.3)	1 (0.5)	160 (81.6)	33 (16.8)	2 (1.0)	1 (0.5)

表6 3歳児用項目 因子分析の結果 (直交バリマックス回転)

因子および項目	50項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
因子1: 育児満足 14項目							
1 子どもを育てるのが楽しいと思う		0.74					
2 子どもの成長を楽しみに思う		0.51					
4 子どもを育てることで自分も成長していると思う		0.42					
6 子どもを産んでよかったと思う		0.62					
14 母親として子どもに接している自分も好きに思える		0.51					
18 子育ては自分にとってやりがいのあることだと思う		0.67					
20 子どもを育てていながら自分はこの子にとって必要な存在だと思う		0.57					
*21 子育ては自分には合っていないので早く好きなことがしたい		0.54					
22 子どもをもつ母親としてしみじみとした幸せを感じる		0.76					
25 子どもは私と一緒にいるのを楽しんでいると思う		0.40					
28 子どもを宝物のように大切に思える		0.54					
30 子どもと一緒にいるとゆったりとした気分になる		0.53					
36 子どもの相手をするのは楽しい		0.61					
54 一緒にいるのが楽しいと思える子どもである		0.52					
因子2: 育児不安 11項目							
17 子育てをするようになってから社会的に孤立していると思うことがある			0.50				
23 毎日生活していてなんとなく心に張りを感じられない			0.49				
24 疲れやストレスがたまっていてイライラする			0.50				
26 ゆったりとした気分で子どもと過ごせない気がする			0.48				
27 子どもを育てていて自分だけが苦労していると思う			0.61				
31 なにか心が満たされず空虚であると感じる			0.53				
38 子育てを離れて一人になりたい気持ちになることがある			0.55				
39 一人で子どもを育てている感じがして気持ちが落ち込むことがある			0.59				
41 体の疲れがとれずいつも疲れている気がする			0.60				
43 だれも自分の子育ての大変さをわかってくれないと思う			0.57				
46 育児や家事など何もしたくない気持ちになることがある			0.47				
因子3: 夫のサポート 8項目							
*5 家族と気持ちがよく通じ合っていないと思うことがある				0.54			
12 夫は家事に協力的である				0.69			
15 夫と自分の二人で子どもを育てている気がする				0.66			
32 夫はよく相談相手になってくれると思う				0.85			
37 夫といろいろなことを話す時間がある				0.76			
40 夫は子どもの相手をよくしてくれる				0.80			
45 夫は自分のことを理解してくれていると思う				0.76			
47 家庭内の重要な決定をするのに夫がいてくれてよかったと思う				0.76			
因子4: 自信のなさ 8項目							
8 自分はうまく子どもを育てていないと思うことがある					0.65		
*10 自分がほかのだれよりも自分の子どものことをわかっていると思う					0.49		
13 子どもの顔を見たくなくなるくらいに気持ちが沈むことがある					0.47		
19 子どもを育てる自信がないと思うことがある					0.59		
29 子どもを育てていてどうしたらいいかわからなくなることがある					0.64		
33 自分の子どもの育て方はこれでいいのだろうかと思うことがある					0.65		
35 自分は子どものことをわかっていないのではないかと思うことがある					0.69		
42 子どもをたたいりしかったりしたときにいつまでもくよくよ考えることがある					0.57		
因子5: 子どもの育てやすさ 5項目							
48 育てやすい子どもであると思う						0.77	
49 わかりやすい子どもであると思う						0.60	
*51 育てるのに大変手がかかる子どもであると思う						0.62	
52 寝たり起きたりのリズムが安定している子どもであると思う						0.56	
53 機嫌のよいことが多い子どもだと思う						0.73	
因子6: 相談相手の有無 4項目							
7 子どものことで相談できる人がいてよかったと思う							0.76
*11 子どものことでだれも相談する相手がなくて困ることがある							0.75
34 何でも打ち明けて相談できる人がいてよかったと思う							0.71
*44 子どものことでだれに相談したらいいかわからなくて困ることがある							0.66
固有値		13.47	4.16	2.80	1.95	1.91	1.54
寄与率 (%)		11.45	9.66	9.52	9.06	6.10	5.88
累積寄与率 (%)		11.45	21.11	30.63	39.68	45.78	51.66
*印は逆転得点項目							

表7 3歳児用 最終項目

因子および項目	41項目
因子1: 育児満足 9項目 $\alpha = .86$	
1	子どもを育てるのが楽しいと思う
6	子どもを産んでよかったと思う
14	母親として子どもに接している自分も好きに思える
18	子育ては自分にとってやりがいのあることだと思う
20	子どもを育てていながら自分はこの子にとって必要な存在だと思う
22	子どもをもつ母親としてしみじみとした幸せを感じる
28	子どもを宝物のように大切に思える
30	子どもと一緒にいるとゆったりとした気分になる
36	子どもの相手をするのは楽しい
因子2: 育児不安 11項目 $\alpha = .87$	
17	子育てをするようになってから社会的に孤立していると思うことがある
23	毎日生活しててなんとなく心に張りを感じられない
24	疲れやストレスがたまっていてイライラする
26	ゆったりとした気分で子どもと過ごせない気がする
27	子どもを育てていて自分だけが苦勞していると思う
31	なにか心が満たされず空虚であると感じる
38	子育てを離れて一人になりたい気持ちになることがある
39	一人で子どもを育てている感じがして気持ちが落ち込むことがある
41	体の疲れがとれずいつも疲れている気がする
43	だれも自分の子育ての大変さをわかってくれないと思う
46	育児や家事など何もしたくない気持ちになることがある
因子3: 夫のサポート 7項目 $\alpha = .85$	
*5	家族と気持ちがよく通じ合っていないと思うことがある
12	夫は家事に協力的である
15	夫と自分の二人で子どもを育てている気がする
37	夫といろいろなことを話す時間がある
40	夫は子どもの相手をよくしてくれる
45	夫は自分のことを理解してくれていると思う
47	家庭内の重要な決定をするのに夫がいてくれてよかったと思う
因子4: 自信のなさ 6項目 $\alpha = .83$	
8	自分はずまく子どもを育てていないと思うことがある
19	子どもを育てる自信がないと思うことがある
29	子どもを育てていてどうしたらいいかわからなくなることがある
33	自分の子どもの育て方はこれでいいのだろうかと思うことがある
35	自分は子どものことをわかっていないのではないかと思うことがある
42	子どもをたたいたりしかったりしたときにいつまでもくよくよ考えることがある
因子5: 子どもの育てやすさ 5項目 $\alpha = .76$	
48	育てやすい子どもであると思う
49	わかりやすい子どもであると思う
*51	育てるのに大変手がかかる子どもであると思う
53	機嫌のよいことが多い子どもだと思う
55	子どもの発育発達はおおむね順調である
因子6: 相談相手の有無 3項目 $\alpha = .78$	
7	子どものことで相談できる人がいてよかったと思う
*11	子どものことでだれも相談する相手がなくて困ることがある
34	何でも打ち明けて相談できる人がいてよかったと思う

*印は逆転得点項目

同一因子内の項目の内的整合性、および、合計得点の信頼性が確認された。

2) 4歳児

6因子を指定して因子分析を行ったが、「育児不安」と「自信のなさ」の因子は両方の項目が混合していた。そのため、5因子を指定して再度因子分析を行った。その結果、「育児満足」、「夫のサポート」、「育児不安・

自信のなさ」、「子どもの育てやすさ」、「相談相手の有無」と分かれた。そのため、5因子にすることにした。因子負荷量が.40未満であった項目6つを削除して、再度因子分析を行ったところ49項目が残った(表8)。項目選択の考えに基づいて項目を選択したところ、最終的には35項目になった(表9)。それぞれの因子のクロンバッハの α 信頼性係数は.67~.87であり(表9)、

表8 4歳児用項目 因子分析の結果 (直交バリマックス回転)

因子および項目	49項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
因子1: 育児満足 15項目						
1 子どもを育てるのが楽しいと思う		0.72				
2 子どもの成長を楽しみに思う		0.59				
4 子どもを育てることで自分も成長していると思う		0.46				
6 子どもを産んでよかったと思う		0.53				
10 自分がほかのだれよりも子どものことをわかっていると思う		0.44				
14 母親として子どもに接している自分も好きに思える		0.62				
18 子育ては自分にとってやりがいのあることだと思う		0.74				
20 子どもを育てていながら自分はこの子にとって必要な存在だと思う		0.62				
*21 子育ては自分には合っていないので早く好きなことがしたい		0.52				
22 子どもをもつ母親としてしみじみとした幸せを感じる		0.71				
25 子どもは私と一緒にいるのを楽しんでいると思う		0.56				
28 子どもを宝物のように大切に思える		0.49				
30 子どもと一緒にいるとゆったりとした気分になる		0.64				
36 子どもの相手をするのは楽しい		0.72				
54 一緒にいるのが楽しいと思える子どもである		0.56				
因子2: 夫のサポート 9項目						
*5 家族と気持ちがよく通じ合っていないと思うことがある			0.49			
12 夫は家事に協力的である			0.75			
15 夫と自分の二人で子どもを育てている感じがする			0.63			
32 夫はよく相談相手になってくれると思う			0.84			
37 夫といろいろなことを話す時間がある			0.77			
*39 一人で子どもを育てている感じがして気持ちが落ち込むことがある			0.44			
40 夫は子どもの相手をよくしてくれる			0.72			
45 夫は自分のことを理解してくれていると思う			0.81			
47 家庭内の重要な決定をするのに夫がいてくれてよかったと思う			0.68			
因子3: 育児不安・自信のなさ 13項目						
13 子どもの顔を見たくなくなるくらいに気持ちが沈むことがある				0.45		
19 子どもを育てる自信がないと思うことがある				0.55		
23 毎日生活していてなんとなく心に張りを感じられない				0.54		
24 疲れやストレスがたまっていてイライラする				0.48		
26 ゆったりとした気分で子どもと過ごせない気がする				0.50		
27 子どもを育てていて自分だけが苦勞していると思う				0.41		
29 子どもを育てていてどうしたらいいかわからなくなることがある				0.57		
31 なにか心が満たされず空虚であると感じる				0.52		
33 自分の子どもの育て方はこれでいいのだろうかと思うことがある				0.62		
35 自分は子どものことをわかっているのではないかと思うことがある				0.68		
41 体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする				0.45		
43 だれも自分の子育ての大変さをわかってくれないと思う				0.65		
46 育児や家事など何もしたくない気持ちになることがある				0.48		
因子4: 子どもの育てやすさ 6項目						
48 育てやすい子どもであると思う					0.80	
49 わかりやすい子どもであると思う					0.65	
50 体の丈夫な子どもであると思う					0.47	
*51 育てるのに大変手がかかる子どもであると思う					0.68	
53 機嫌のよいことが多い子どもだと思う					0.79	
55 子どもの発育発達はおおむね順調である					0.46	
因子5: 相談相手の有無 6項目						
7 子どものことで相談できる人がいてよかったと思う						0.58
*11 子どものことでだれも相談する相手がなくて困ることがある						0.61
*17 子育てをするようになってから社会的に孤立しているように思うことがある						0.44
34 何でも打ち明けて相談できる人がいてよかったと思う						0.50
*43 だれも自分の子育ての大変さをわかってくれないと思うことがある						0.50
*44 子どものことでだれに相談したらいいかわからなくて困ることがある						0.62
固有値		11.82	4.06	3.02	2.44	1.99
寄与率 (%)		12.47	10.89	10.20	7.87	6.16
累積寄与率 (%)		12.47	23.36	33.56	41.43	47.59
*印は逆転得点項目						

表9 4歳児用 最終項目

因子および項目	35項目
因子1: 育児満足 11項目 $\alpha = .87$	1 子どもを育てるのが楽しいと思う 4 子どもを育てることで自分も成長していると思う 6 子どもを産んでよかったと思う 14 母親として子どもに接している自分も好きに思える 18 子育ては自分にとってやりがいのあることだと思う 20 子どもを育てていながら自分はこの子にとって必要な存在だと思う 22 子どもをもつ母親としてしみじみとした幸せを感じる 25 子どもは私と一緒にいるのを楽しんでいると思う 28 子どもを宝物のように大切に思える 30 子どもと一緒にいるとゆったりとした気分になる 36 子どもの相手をするのは楽しい
因子2: 夫のサポート 6項目 $\alpha = .83$	*5 家族と気持ちがよく通じ合っていないと思うことがある 15 夫と自分の二人で子どもを育てている感じがする 37 夫といろいろなことを話す時間がある 40 夫は子どもの相手をよくしてくれる 45 夫は自分のことを理解してくれていると思う 47 家庭内の重要な決定をするのに夫がいてくれてよかったと思う
因子3: 育児不安・自信のなさ 10項目 $\alpha = .84$	19 子どもを育てる自信がないと思うことがある 23 毎日生活していてなんとなく心に張りを感じられない 24 疲れやストレスがたまっていてイライラする 26 ゆったりとした気分で子どもと過ごせない気がする 29 子どもを育てていてどうしたらいいかわからなくなることがある 31 なにか心が満たされず空虚であると感じる 33 自分の子どもの育て方はこれでいいのだろうかと思うことがある 35 自分は子どものことをわかっているのではないかと思うことがある 41 体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする 43 だれも自分の子育ての大変さをわかってくれないと思う
因子4: 子どもの育てやすさ 4項目 $\alpha = .67$	49 わかりやすい子どもであると思う 50 体の丈夫な子どもであると思う 53 機嫌のよいことが多い子どもだと思う 55 子どもの発育発達はおおむね順調である
因子5: 相談相手の有無 4項目 $\alpha = .75$	7 子どものもことで相談できる人がいてよかったと思う *11 子どものもことでだれも相談する相手がいなくて困ることがある 34 何でも打ち明けて相談できる人がいてよかったと思う *44 子どものもことでだれに相談したらいいかわからなくて困ることがある

*印は逆転得点項目

同一因子内の項目の内的整合性、および、合計得点の信頼性が確認された。

3. 育児不安5段階評定、および、妥当性

3歳児については「育児不安」11項目の合計得点を「育児不安得点」として求めた。その結果、44点満点で、平均値23.49点、標準偏差(SD) 6.84点であった。この数値に基づき、平均値 $\pm 1/2$ SD、 ± 1 SDを基準に不安段階を5段階に分類した。その結果、不安が最も高い第V段階の分布割合は13.3%となった(表10)。4歳児についても「育児不安・自信のなさ」10項目

の合計得点を「育児不安得点」として求めたところ、40点満点で、平均値28.82点、標準偏差(SD) 5.56点であった。この数値に基づき、平均値 $\pm 1/2$ SD、 ± 1 SDを基準に不安段階を5段階に分類した。その結果不安が最も高い第V段階の分布の割合は16.5%となった(表10)。なお、この育児不安5段階評定の分布に、保健福祉センターの回収率の低さが影響しているかどうか調べるため、それぞれの保健福祉センター、および、幼稚園・保育園の3歳児の結果について回収率と分布の関係を調べたが、一定の関連性は確認できなかった。

表10 育児不安5段階評定

段階	第Ⅰ段階： 不安低い	第Ⅱ段階： 不安比較的低い	第Ⅲ段階： 不安中等度	第Ⅳ段階： 不安比較的高い	第Ⅴ段階： 不安高い	
範囲	～-1SD 未満	-1SD～ -1/2SD 未満	-1/2SD～ +1/2SD	+1/2SD 超える～ +1SD	+1SD 超える	
3歳児	得点範囲 (点)	～16	17～20	21～26	27～31	32～
	分布割合 (%)	15.2	25.8	29.3	16.4	13.3
4歳児	得点範囲 (点)	～17	18～19	20～25	26～28	29～
	分布割合 (%)	16.8	16.3	37.2	12.8	16.5

これらの育児不安5段階評定の妥当性を検討するため、育児不安5段階とSTAI状態不安5段階との相関を求めたところ、3歳児 ($r = .54, p < .0001$)、4歳児 ($r = .55, p < .0001$) と高い正の相関が認められた。以上の結果より、5段階評定の妥当性が確認された。

IV. 考 察

1. 妥当性、および、信頼性について

育てている子どもの月齢や年齢によって母親の育児不安の質が異なることが考えられる。そのため、子どもの年齢群別に因子分析をし、適切な項目を選択する作業を行うことによって、年齢に合致した尺度を作る試みを行ってきた。これまでの研究によって、1・2か月児、4・5か月児、10・11か月児、1歳半児、2歳児、3歳児、4歳児の母親用の7種類の育児不安尺度が作成されたことになる。

今回の研究では、育児不安の5段階評定の妥当性が確認された。ただし、妥当性を検討する対照として用いた尺度が一般的な状態不安を測定するSTAIであったことには疑問が残されている。しかし、妥当性を検討して作られている他の育児不安尺度が見当たらなかったため、このような方法を用いるのが、可能な一つの方法であった。

ところで5段階評定にしたのは、同じ育児不安の項目を用いて測定した場合に、月齢や年齢の異なる子どもを育てている母親によって、得点が異なることに気付いたからであった¹⁾。また、これまでの研究によって筆者らが開発した尺度を見ても、項目が異なることがあるからである。そのため、継続して支援を行っていったときに、ある母親の得点が以前に測定したときよりも下がっていたとしても、その年齢群の母親全体の得点が以前の得点よりも下がっている場合には、相対的に見た場合に、その母親の不安が低下していない

可能性もあるからである。このようなことを避けるために、それぞれの月齢、あるいは年齢の母親群の不安得点の平均値をもとに作られた不安段階の変化で、不安の推移を見ていく方法が適していると考えられる²⁾。さらに、不安が高い第Ⅴ段階を示した母親に対して集中的に支援を行うことが、限られた支援体制の中で有効であると考えられる。

今回、信頼性は、同一因子内の項目の内的整合性、および、合計得点の信頼性を確認したのみであり、再テスト法によって信頼性を確認したわけではなかった。研究時間や研究費などの限界によって、やむをえずこのようなことになったのであるが、今後の課題として残されていることになる。

以上育児不安5段階評定の妥当性と、育児不安得点の信頼性が確認されたのであるが、その妥当性については、今後実際の小児保健活動を通して確認していく必要がある。

2. 育児不安のとらえ方について

今回の研究では、これまでの研究¹⁾で指摘した、育てている子どもの月齢や年齢によって項目の得点が異なることに加えて、育児不安のとらえ方が違うのではないかという可能性が明らかになった。当初は3歳児と4歳児の母親の資料を一緒にして3・4歳児の母親用モデルを作成できるのではないかと考えていた。ところが、結果のところ述べてのように、分析の結果、育児不安の認識において、3歳児の母親と4歳児の母親との間で違いのあることが判明した。すなわち、4歳児の母親は、育児不安と子育ての自信のなさを分けてとらえていないようであり、別々に作成することにした。あくまでも統計上の分析による解釈ではあるが、このような結果をみると、1～6歳の子どもを育てている母親に対して、あるいは3～6歳の子どもを育てている母親に対して、同じ尺度で育児不安を測定しよ

うとする試みは^{6,7)}、効率的ではあるが、注意が必要であると考えられる。

付 記

本調査研究にご協力いただいた、保健福祉センターと、保育園、幼稚園、並びに、多くのお母さま方に感謝申し上げます。なお本研究は、専修大学の平成24年度長期国内研究の期間を利用してまとめたものである。

文 献

- 1) Yoshida H, Yamanaka T, Khono G, et al. Differences in anxiety variables of mothers rearing first-born infants : A pilot study of the maternal anxiety screening scale. in M. Matsushita & I. Fukunishi eds. Cutting Edge Medicine and Liaison Psychiatry. Psychiatric Problems of Organ Transplantation, Cancer, HIV/AIDS and Genetic Therapy. Amsterdam : Elsevier Science, 1999 : 193-202.
- 2) 吉田弘道, 山中龍宏, 太田百合子, 他. 育児不安スクリーニング尺度の作成に関する研究—1・2か月児の母親用試作モデルの検討—. 小児保健研究 1999 ; 58 : 697-704.
- 3) 吉田弘道, 山中龍宏, 太田百合子, 他. 育児不安尺度の作成に関する研究 1歳半児の母親用試作モデルの検討. チャイルドヘルス 1999 ; 2 : 139-143.
- 4) 吉田弘道, 山中龍宏, 巷野悟郎, 他. 育児不安尺度の作成に関する研究 その1—4・5か月児, および, 10・11か月児の母親用モデル—. 小児保健研究 2013 ; 72 : 680-689.
- 5) 吉田弘道, 山中龍宏, 巷野悟郎, 他. 育児不安尺度の作成に関する研究 その2—1歳半児, および, 2歳児の母親用モデル—. 小児保健研究 2013 ; 72 : 690-698.
- 6) 田中宏二, 難波茂美. 育児ストレス尺度の作成. 岡山大学教育学部研究集録 1997 ; 106 : 179-183.
- 7) 子ども家庭総合研究所・愛育相談所編著. 子ども総研式・育児支援質問紙手引き. 子ども家庭総合研究所・愛育相談所, 1999.

〔Summary〕

The maternal anxiety scales for mothers of 3 Year-Old and 4 Year-Old Children were developed with participation of 256 and 196 mothers. Factor analysis yielded six or five factors related to maternal anxiety, support from husband, satisfaction from child rearing, characteristics of child (easiness to rear), support from others, and diffidence to rearing. These scales were designed to be rated at 5 grades using the total score for maternal anxiety factor. Validities of the 5 grades of anxiety of the scales were also indicated by high correlation with scores on the 5 grades of state anxiety of the State-Trait-Anxiety Inventory. The reliabilities of the scales were also supported by its factor analytic structure, relatively high internal consistency. These results suggest that these scales may be useful for screening mothers with high anxiety from child rearing in order to better support them.

〔Key words〕

maternal anxiety scale, 3 year-old children, 4 year-old children, internal consistency, validity